2023 年度

シラバス

（講義計画）

学校法人 立志舎

専門学校日本動物２１

【動物看護学科】

昼間部　動物管理専門課程（文化・教養）　動物看護学科　３年制

項数	科目区分	必修・選択の別	授業科目	授業形態	第一学年		第二学年		第三学年		授業時数合計	単位数合計
					授業時数	単位数	授業時数	単位数	授業時数	単位数		
1	一般科目	必修	ビジネスマナー	講義	60	2					60	2
2		選択必修	動物総合Ⅰ	演習	60	2					60	2
3			動物総合Ⅱ	演習			30	1			30	1
4			動物総合Ⅲ	演習					30	1	30	1
5			動物総合Ⅳ	演習					30	1	30	1
6	専門科目	必修	卒業研究	演習					150	5	150	5
7			生命倫理・動物福祉	講義	30	1					30	1
8			動物形態機能学Ⅰ	講義	60	2					60	2
9			動物形態機能学Ⅱ	講義	60	2					60	2
10			動物繁殖学	講義			30	1			30	1
11			動物行動学	講義	30	1					30	1
12			動物栄養学Ⅰ	講義	30	1					30	1
13			動物栄養学Ⅱ	講義					30	1	30	1
14			比較動物学Ⅰ	講義	30	1					30	1
15			比較動物学Ⅱ	講義			30	1			30	1
16			動物看護関連法規	講義	15	1					15	1
17			動物愛護・適正飼養関連法規	講義	15	1					15	1
18			動物看護学概論	講義	30	1					30	1
19			動物病理学	講義			30	1			30	1
20			動物薬理学Ⅰ	講義			30	1			30	1
21			動物薬理学Ⅱ	講義					30	1	30	1
22			動物感染症学Ⅰ	講義			30	1			30	1
23			動物感染症学Ⅱ	講義			30	1			30	1
24			動物感染症学Ⅲ	講義					30	1	30	1
25			公衆衛生学Ⅰ	講義			30	1			30	1
26			公衆衛生学Ⅱ	講義					30	1	30	1
27			動物内科看護学Ⅰ	講義			30	1			30	1
28			動物内科看護学Ⅱ	講義			30	1			30	1
29			動物内科看護学Ⅲ	講義					30	1	30	1
30			動物外科看護学Ⅰ	講義			30	1			30	1
31			動物外科看護学Ⅱ	講義			30	1			30	1
32			動物臨床看護学総論	講義	30	1					30	1
33			動物臨床看護学各論Ⅰ	講義			60	2			60	2
34			動物臨床看護学各論Ⅱ	講義			30	1			30	1
35			動物臨床看護学各論Ⅲ	講義					30	1	30	1
36			動物臨床検査学	講義	30	1					30	1
37			動物医療コミュニケーション	講義	30	1					30	1
38			愛玩動物学	講義			60	2			60	2
39			人と動物の関係学	講義	30	1					30	1
40			適正飼養指導論	講義			60	2			60	2
41			動物生活環境学	講義			30	1			30	1
42			ペット関連産業概論	講義			30	1			30	1
43			動物形態機能学実習	実習	30	1					30	1
44			動物内科看護学実習Ⅰ	実習	30	1					30	1
45			動物内科看護学実習Ⅱ	実習	30	1					30	1
46			動物内科看護学実習Ⅲ	実習			30	1			30	1
47			動物内科看護学実習Ⅳ	実習					30	1	30	1
48			動物臨床検査学実習Ⅰ	実習	30	1					30	1
49			動物臨床検査学実習Ⅱ	実習					30	1	30	1
50			動物外科看護学実習Ⅰ	実習			30	1			30	1
51			動物外科看護学実習Ⅱ	実習					30	1	30	1
52			動物外科看護学実習Ⅲ	実習					30	1	30	1
53			動物臨床看護学実習Ⅰ	実習			30	1			30	1
54			動物臨床看護学実習Ⅱ	実習					30	1	30	1
55			動物愛護・適正飼養実習Ⅰ	実習	30	1					30	1
56			動物愛護・適正飼養実習Ⅱ	実習			30	1			30	1
57			動物看護総合実習Ⅰ	実習	60	2					60	2
58			動物看護総合実習Ⅱ	実習			60	2			60	2
59			動物看護総合実習Ⅲ	実習					60	2	60	2
60		選択必修	基礎動物看護学演習Ⅰ	演習					60	2	60	2
61			基礎動物看護学演習Ⅱ	演習					60	2	60	2
62			臨床動物看護学演習Ⅰ	演習					60	2	60	2
63			臨床動物看護学演習Ⅱ	演習					60	2	60	2
64			愛護・適正飼養学演習Ⅰ	演習			60	2			60	2
65			アニマルトレーニングⅠ	実習	30	1					30	1
66			アニマルトレーニングⅡ	実習	30	1					30	1
67			アニマルトレーニングⅢ	実習					30	1	30	1
68			グルーミングケアⅠ	実習	60	2					60	2
69			グルーミングケアⅡ	実習	60	2					60	2
70			グルーミングケアⅢ	実習			30	1			30	1
71			グルーミングケアⅣ	実習			30	1			30	1
72			接遇講座	講義			30	1			30	1
73			家庭動物学	講義	30	1					30	1
必修科目合計					690		780		540		2010	
選択必修科目合計					270		180		330		780	
卒業に必要な総授業時数					800		800		800		2400	

１．講義・演習は15時数～30時数で1単位とし、実習は30時数～45時数で1単位とする。

２．選択必修についてはこの中から13単位数以上履修すること。

３．国家試験受験資格は、指定科目を必須で履修すること。

科目名：ビジネスマナー

開講年次：1年　授業時数：60　単位数：2
種類：一般科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員及び実務経験のある教員（獣医学専門誌、動物看護専門誌、トリマー向け専門誌などの出版事業を行っている企業の営業担当者）

〔講義主要目標及び講義概要〕

社会人として必要なビジネスマナーについて学ぶ。学生としての意識・行動を顧み、社会人としての自覚や責任感を持つ。基本的なビジネスマナーを理解し組織の一員として働く留意点を学び、仕事を行う上で必要な職場における気配り・心配り・気遣いのできる社会人を目指す。

〔講義・演習項目〕

1．職場の人間関係
2．就業中のマナー
3．挨拶とお辞儀
4．服装・身だしなみ
5．話し方の基本
6．言葉遣い
7．上司・来客との話し方・聞き方
8．電話対応
9．来客対応
10．名刺交換と紹介
11．面談
12．冠婚葬祭のマナー

〔テキスト〕

ビジネス能力検定ジョブパス３級公式テキスト・問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物総合Ⅰ

開講年次：1年　授業時数：60　単位数：2
種類：一般科目　分類：選択必修
授業方法：演習
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物業界従事者として必要な一般教養を学ぶ。パソコンの基本的な操作方法やWordの基本的な機能について学ぶ。
また、インターネット上での情報交換・情報発信・情報収集の方法についても学ぶ。
犬と猫の品種について学び、特徴や性格、飼い方のポイントについて研究する。

〔講義・演習項目〕

1．非言語分野基礎（SPI）
2．言語分野基礎（SPI）
3．文字・文章の入力
4．入力の訂正とファイルの保存と読み込み
5．文章の作成（文字の拡大と縮小、文字の修飾）
6．表を活用した文章の作成および表の編集
7．画像や図形を活用した文章の作成
8．各犬種名及び特徴性格と飼い方
9．各猫の品種と特徴性格と飼い方

〔テキスト〕

SPI基礎（ベイシック）テキスト、MOS　Word365&2019対策テキスト&問題集
世界の犬図鑑テキスト、世界の猫図鑑テキスト、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物総合Ⅱ

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：一般科目　分類：選択必修
授業方法：演習
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物業界従事者として必要な一般教養の応用問題に取り組みより正確かつ迅速に演習ができるようにする。
パソコンのExcel、PowerPoint 等の操作方法や基本的な機能について学ぶ。
また、インターネット上での情報交換・情報発信・情報収集の方法についても学ぶ。

〔講義・演習項目〕

1．非言語分野（SPI）
2．言語分野（SPI）
3．データ入力や基本的なワークシート編集
4．関数を使った計算式
5．小数点とセルの参照
6．グラフ
7．条件判定と順位づけ
8．検索関数の利用
9．Excel の便利な機能
10. PowerPoint の基本機能
11. Web ページを活用した表の作成
12. Word と Excel の活用

〔テキスト〕

SPI 基礎（ベイシック）テキスト、、MOS Excel365＆2019 対策テキスト＆問題集
独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物総合Ⅲ

開講年次：3年　授業時数：30　単位数：1
種類：一般科目　分類：選択必修
授業方法：演習
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

就職活動の際に必要な面接試験や職業についての考え方を学ぶ。また、自己分析を行いエントリーシート作成や履歴書作成に備える。
ペットシッティングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。また、動物のボディケアを行い、お手入れや健康チェックを学ぶ。飼養施設の衛生管理に努め、温度及び湿度を管理し、動物が快適に生活できる環境づくりを身につける。

〔講義・演習項目〕

1．職業についての考え方
2．就職を取り巻く社会状況の分析
3．就職活動の予備知識
4．企業研究と自己分析の仕方
5．面接練習
6．動物のボディケア（健康チェック、お手入れなど）
7．動物飼養室の管理
8．ペットフードと体重管理
9．温度及び湿度の管理
10．消毒薬品等の管理
11．廃棄物処理及び衛生管理
12．緊急時の対応

〔テキスト〕
独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物総合Ⅳ

開講年次：3年　授業時数：30　単位数：1
種類：一般科目　分類：選択必修
授業方法：演習
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物の飼養施設の衛生管理、温度及び湿度の管理、給餌と給水を適切に行う知識と技術を学校飼育犬へのペットシッティングを通じて身につける。動物総合Ⅲで学んだ動物のボディケアを円滑にできるようにする。消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。
また、管理、指導役としてペットシッティング実施者へのアドバイス、作業状態をチェックできるよう、飼養施設の管理を総合的に把握する能力を身につける。

〔講義・演習項目〕

1．動物のボディケア（健康チェック、お手入れなど）
2．動物飼養室の管理
3．ペットフードと体重管理
4．温度及び湿度の管理
5．消毒薬品等の管理
6．消耗品管理
7．廃棄物処理及び衛生管理
8．動物愛護論
9．緊急時の対応
10．飼育管理指導

〔テキスト〕
独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
出席およびレポートにより判断するが、評価にあたっては出席率を重視する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：卒業研究

開講年次：3年　授業時数：150　単位数：5
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：演習
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

愛玩動物看護師業務として必要な動物看護科目分野を卒業研究テーマとして、より深く確かな知識が身に付くように論文作成指導をする。
与えられた研究テーマに沿って論文提出を行い、愛玩動物看護師として自ら考え、自立した行動ができる能力を養う。
また、愛玩動物看護師試験試験対策にも活かして、本試験の合格を目指す。

〔講義・演習項目〕

1．卒業研究とは
2．卒業研究テーマ内容について
3．卒業研究参考文献について
4．卒業研究テーマの構成づくり
5．論文作成方法について
6．論文下書き作成
7．論文下書き修正と完成
8．論文清書作成
9．論文清書の修正と完成
10．製本
11．愛玩動物看護師試験対策

〔テキスト〕
卒業研究に関する資料、動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：生命倫理・動物福祉

開講年次：1年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。
生命倫理の概念、動物福祉の概念、愛玩動物の福祉、産業動物の福祉、実験動物の福祉、展示動物の福祉について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．生命倫理の概念
　1）生命倫理の考え方について理解する
　2）生命倫理と獣医療の関わりについて理解する
2．動物福祉の概念
　1）動物福祉の考え方について理解する
　2）「５つの自由」（飢え・渇きからの自由、痛み・負傷・病気からの自由、不快からの自由、本来の行動がとれる自由、恐怖・抑圧からの自由）について理解する
　3）世界と日本における近代及び現代の動物愛護運動について理解する
　4）「動物の権利」、「動物福祉」思想や課題について理解する
　5）動物福祉の生理学的指標及び行動的指標による評価法について理解する
　6）安楽死の考え方について理解する
3．愛玩動物の福祉
　1）愛玩動物の適正飼養と福祉上の問題について理解する
　2）国内外の動物保護活動の現状と課題について理解する
　3）飼養放棄や殺処分問題、対策について理解する
　4）動物のみだりな殺傷・虐待（積極的な虐待とネグレクト）の現状、対策について理解する
　5）飼養動物の災害時の対応について理解する
4．産業動物の福祉
　1）産業動物における福祉上の問題について理解する
　2）国際的な福祉基準について理解する
　3）産業動物の福祉を向上させるための具体的方法について理解する
5．実験動物の福祉
　1）実験動物における福祉上の問題について理解する
　2）３Ｒ（Replacement（代替）、Reduction（削減）、Refinement（改善））の概念と具体的方法について理解する
6．展示動物の福祉
　1）展示動物における福祉上の問題について理解する
　2）展示動物に対する環境エンリッチメントの種類と内容について理解する

〔テキスト〕
動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物形態機能学Ⅰ

開講年次：1年　授業時数：60　単位数：2
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。
生命のすがた、循環器、呼吸器、消化器と栄養代謝、内分泌とホルモンについて理解する。

〔講義・演習項目〕

1．生命のすがた
　1）細胞の構造について理解する
　2）ＤＮＡの働きについて理解する
　3）上皮組織、腺組織、支持組織、筋組織、神経組織について理解する
　4）器官の成り立ちと維持、調整システムについて理解する
2．循環器とその調節
　1）心臓の構造について理解する
　2）心筋細胞の電気現象と心筋の興奮伝導系について理解する
　3）ポンプとしての心臓機能と心電図、心音について理解する
　4）心臓機能の調節機構について理解する
　5）血管の種類と構造、機能について理解する
　6）血圧調節機構について理解する
3．呼吸器とその調節
　1）呼吸器の構造について理解する
　2）換気の仕組みについて理解する
　3）肺胞におけるガス交換について理解する
　4）血液による酸素と二酸化炭素の運搬について理解する
　5）呼吸運動の調節機構について理解する
4．消化器と栄養代謝
　1）消化管（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸）の構造と機能について理解する
　2）唾液腺、膵臓、肝臓の構造と機能について理解する
　3）消化と吸収の仕組みについて理解する
　4）各種栄養素（糖質、タンパク質、脂質）の代謝について理解する
5．内分泌とホルモン
　1）内分泌の定義について理解する
　2）ホルモンの性質、機能、生成、分泌、フィードバック調節について理解する
　3）主な内分泌臓器の構造と機能について理解する
　4）主なホルモンの作用と標的器官について理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物形態機能学Ⅱ

開講年次：1年　授業時数：60　単位数：2
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。
泌尿器と体液調節、脳と神経、運動器、血液と造血器、皮膚と感覚器について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．泌尿器と体液調節
　1）腎臓及びネフロンの構造と機能について理解する
　2）クリアランスの意味を知り、腎血漿流量と糸球体濾過量の調節機構について理解する
　3）尿細管における再吸収と分泌、集合管における尿濃縮について理解する
　4）体液の分布と区分、調節機構について理解する
　5）電解質バランスについて理解する
　6）酸・塩基平衡について理解する
2．脳と神経
　1）ニューロンの構成と活動電位、シナプス伝達について理解する
　2）脳の構造と機能について理解する
　3）脊髄の構造と機能について理解する
　4）体性神経の構成と機能について理解する
　5）自律神経の構成と機能について理解する
3．運動器
　1）骨格の構成について理解する
　2）骨の形状と構造について理解する
　3）関節の構造と働きについて理解する
　4）骨格筋の構造と収縮機構について理解する
　5）主な骨格筋の名称と機能について理解する
4．血液と造血器
　1）血球成分と血漿成分について理解する
　2）赤血球の構造と機能について理解する
　3）白血球の構造と機能について理解する
　4）血小板機能と血液凝固機構及び線維素溶解について理解する
5．皮膚と感覚器
　1）皮膚の構造と機能について理解する
　2）皮膚の付属器官について理解する
　3）体性感覚（皮膚感覚）について理解する
　4）特殊感覚（視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚）について理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物繁殖学

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。
生殖器の形態と機能、性周期と交配、妊娠と分娩、新生子管理、遺伝学概論について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．生殖器の形態と機能
　1）生殖器（雌・雄）の基本構造について理解する
　2）主要な性ホルモンの名称、産生部位及び標的器官について理解する
　3）雄の繁殖生理について理解する
　4）雌の繁殖生理について理解する
2．性周期と交配
　1）性成熟と発情徴候について理解する
　2）排卵（自然排卵・交尾排卵）の仕組みについて理解する
　3）性周期と腟細胞スメアの関係について理解する
　4）交配適期の決定法について理解する
3．妊娠と分娩
　1）着床・発生・妊娠・胎子の発育について理解する
　2）妊娠期間、偽妊娠について理解する
　3）分娩と助産、帝王切開について理解する
　4）去勢・不妊手術について理解する
　5）人工授精について理解する
4．新生子管理
　1）新生子のための飼養環境について理解する
　2）初乳の意義と哺乳について理解する
　3）新生子の発育過程について理解する
5．遺伝学概論
　1）遺伝のメカニズムについて理解する
　2）さまざまな遺伝様式（顕性・潜性、伴性遺伝など）について理解する
　3）遺伝子疾患、発生異常について理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物行動学

開講年次：1年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。
動物行動学の基礎、個体維持行動、発達過程と社会行動、学習理論、問題行動、行動治療について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．動物行動学の基礎
　1）動物行動学の４つの問い（適応・進化・機構・発達）について理解する
　2）行動の進化と適応、家畜化について理解する
　3）生得的行動と学習行動について理解する
　4）脳による行動制御について理解する
2．個体維持行動
　1）摂食及び飲水行動について理解する
　2）排泄行動について理解する
　3）身づくろい行動について理解する
　4）護身行動について理解する
3．発達過程と社会行動
　1）発達ステージ（新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期）と各時期の行動学的特徴について理解する
　2）生殖行動（性行動・母性行動）について理解する
　3）コミュニケーション行動について理解する
　4）敵対行動と親和的行動について理解する
4．学習理論
　1）行動形成について理解する
　2）馴化と感作について理解する
　3）古典的条件づけとオペラント条件づけについて理解する
　4）学習に影響を与える因子について理解する
　5）基本的なトレーニング法（トイレトレーニング、クレートトレーニング、甘噛み対策など）について理解する
5．問題行動
　1）問題行動の定義と要因（遺伝的要因、生得的要因、環境要因）について理解する
　2）攻撃行動の種類、原因（動機づけ）と治療法について理解する
　3）恐怖・不安に起因する問題行動の原因と治療法について理解する
　4）不適切な排泄行動の原因（動機づけ）と治療法について理解する
　5）高齢性認知機能不全の原因と臨床徴候、対応について理解する
6．行動治療
　1）行動診療の進め方について理解する
　2）行動修正法と環境修正法の種類と適応について理解する
　3）行動治療における薬物療法について理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物栄養学Ⅰ

開講年次：1年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

５大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージごとの違い、給餌方法などを修得する。
基礎栄養、栄養要求量、フードと栄養指導について理解する。

〔講義・演習項目〕

１．基礎栄養
　１）５大栄養素（糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル）について理解する
　２）栄養要求の種差（必須アミノ酸、必須脂肪酸など）について理解する
　３）食性、嗜好、嗜好性、摂食行動について理解する
　４）健康維持における栄養の持つ意味について理解する
　５）栄養素の不足、過剰症について理解する
２．栄養要求量
　１）エネルギー要求量（RER、MER など）の意味と計算法について理解する
　２）栄養基準（AAFCO、NRC など）について理解する
　３）ライフステージ（成長期、維持期、妊娠期、授乳期、老齢期）ごとの栄養管理について理解する
３．フードと栄養指導
　１）ペットフードの種類、分類について理解する
　２）ペットフードのラベル表示について理解し、飼い主に説明できる
　３）中毒、与えてはいけないものについて飼い主に指導できる
　４）栄養状態の評価法（BCS、体脂肪測定など）について理解する
　５）肥満の弊害と減量プログラムの作成法について理解する

〔テキスト〕
動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物栄養学Ⅱ

開講年次：3年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物栄養学Ⅰで学んだことを活用して、疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。
疾患と栄養、強制給餌と経管・静脈栄養法について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．疾患と栄養
　1）さまざまな疾患時の食事療法について理解する
　2）療法食の特徴や効果を理解し、飼い主に説明できる
2．強制給餌と経管・静脈栄養法
　1）強制給餌の方法と注意点について理解する
　2）経管栄養法の種類（経鼻、食道、胃瘻チューブなど）と特徴、方法について理解する
　3）静脈栄養法の種類（TPN、PPN）と特徴、方法について理解する
　4）チューブやカテーテルの設置手順と管理上の注意点について理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：比較動物学Ⅰ

開講年次：1年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法について学ぶ。
飼養動物と野生動物を比較しながら、その歴史、社会的位置づけ及び特徴、産業動物について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．動物の種類及び特性
　1）愛玩動物、産業動物、実験動物、展示動物等の飼養動物と野生動物を比較しながら、その歴史、社会的位置づけ及び特徴について理解する
2．産業動物
　1）家畜（馬・牛・めん羊・山羊・豚・鶏）の歴史と品種、特徴について理解する
　2）各家畜の消化器の形態と機能、食性について理解する
　3）各家畜の性周期と繁殖生理について理解する
　4）各家畜の飼養施設の概要について理解する
　5）各家畜の食性と飼養法について理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：比較動物学Ⅱ

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

比較動物学Ⅰで学んだことを活用して、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体、群管理について学ぶ。
実験動物、野生動物、展示動物について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．実験動物
　1）動物実験の目的、意義について理解する
　2）代表的な実験動物の飼養管理、繁殖法について理解する
　3）遺伝学的制御、微生物学的制御、環境制御について理解する
　4）疾患モデル動物について理解する
2．野生動物
　1）野生動物の分類と生物多様性について理解する
　2）鳥獣害の現状と保全の意義について理解する
　3）絶滅危惧種の定義と含まれる動物、原因、保全方法について理解する
　4）外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響、対策について理解する
3．展示動物
　1）展示動物の意義と動物園等の役割について理解する
　2）動物園等における個体・群管理、行動管理について理解する
　3）動物園等の施設管理について理解する

〔テキスト〕
動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物看護関連法規

開講年次：1年　授業時数：15　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。
法学総論、愛玩動物看護師法、獣医療関連行政法規、公衆衛生行政法規、薬事行政法規について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．法学総論
　1）法の体系について理解する
　2）獣医療に関連する法規と愛玩動物看護師の関わりについて理解する
2．愛玩動物看護師法
　1）愛玩動物看護師法の目的・定義等について理解する（免許、試験、業務、罰則を含む）
3．獣医療関連行政法規
　1）獣医師法の概要について理解する
　2）獣医療法の概要について理解する
4．公衆衛生行政法規
　1）感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の概要について理解する
　2）狂犬病予防法の概要について理解する
5．薬事行政法規
　1）医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の概要について理解する
　2）麻薬及び向精神薬取締法の概要について理解する
　3）毒物及び劇物取締法の概要について理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物愛護・適正飼養関連法規

開講年次：1年　授業時数：15　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。
愛護・適正飼養の基本となる概念、愛護・適正飼養関連行政法規、社会福祉行政・環境衛生法規、野生動物等に関する法律及び条約について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．愛護・適正飼養の基本となる概念
　1）愛護・適正飼養に関連する法規と愛玩動物看護師の関わりについて理解する
2．愛護・適正飼養関連行政法規
　1）動物の愛護及び管理に関する法律の概要について理解する
　2）愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律の概要について理解する
3．社会福祉行政・環境衛生法規
　1）身体障害者補助犬法について概要を理解する
　2）廃棄物の処理及び清掃に関する法律の概要について理解する
　3）化製場等に関する法律の概要について理解する
4．野生動物等に関する法律及び条約
　1）生物多様性の概要について理解する
　2）特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律の概要について理解する
　3）絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約の概要について理解する
　4）絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律の概要について理解する
　5）鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律の概要について理解する
　6）特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約の概要について理解する
　7）自然公園法における野生動植物保護に関する制度を理解する
　8）文化財保護法における飼育動物や野生生物の保護に関する制度を理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物看護学概論

開講年次：1年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。
動物看護の基本となる概念、動物看護の提供体制、愛玩動物看護師の社会的立場について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．動物看護の基本となる概念
　1）動物看護の目的、概念について理解する
　2）獣医療と動物看護の歴史について理解する
　3）獣医療倫理、動物看護者の倫理綱領について理解する
　4）動物にとっての健康、福祉、QOL について理解する
　5）動物病院における愛玩動物看護師の役割について理解する
2．動物看護の提供体制
　1）社会における動物病院の役割について理解する
　2）一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携について理解する
　3）インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、守秘義務について理解する
　4）診療録（カルテ）と動物看護記録の作成、保存義務について理解する
　5）職場における労働安全衛生、危険の防止・対処法について理解する
3．愛玩動物看護師の社会的立場
　1）愛玩動物看護師の職能団体について理解する
　2）愛玩動物看護師の資格制度と業務範囲、資格認定機関について理解する
　3）愛玩動物看護師に関するその他の代表的な組織・団体について理解する
　4）国際的な動物看護師（獣医療従事者）の業務や資格制度の違いについて理解する

〔テキスト〕
動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物病理学

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。
動物病理学の基礎、細胞や組織に生じる変化、循環障害、炎症、腫瘍、先天異常について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．動物病理学の基礎
　1）病理解剖と病理組織学的検査の目的、意義について理解する
　2）病理組織標本の作製法について理解する
　3）病理組織学的検査の実施手順について理解する
2．細胞や組織に生じる変化
　1）変性と物質沈着について理解する
　2）壊死とアポトーシスについて理解する
　3）細胞増殖のメカニズム、再生と化生について理解する
　4）過形成と肥大について理解する
　5）低形成と萎縮について理解する
3．循環障害
　1）充血とうっ血について理解する
　2）出血の原因と病態について理解する
　3）血栓の成因について理解する
　4）虚血と梗塞について理解する
　5）浮腫と水腫について理解する
　6）ショックの原因と分類、病態について理解する
　7）播種性血管内凝固（DIC）の病態について理解する
4．炎症
　1）炎症の定義と５大主徴について理解する
　2）炎症の分類と原因と特徴について理解する
　3）炎症に関与する細胞と化学伝達物質について理解する
　4）炎症の経過と治癒について理解する
5．腫瘍
　1）腫瘍の定義と分類について理解する
　2）腫瘍の原因と発生機序について理解する
　3）腫瘍と宿主の関係について理解する
　4）腫瘍の転移と進行について理解する
6．先天異常
　1）遺伝子・染色体異常について理解する
　2）発生異常と奇形について理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物薬理学Ⅰ

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。
動物薬理学の基礎、愛玩動物看護師による薬物の取扱い、神経系、呼吸器系、循環器、泌尿器、消化器に作用する薬物について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．動物薬理学の基礎
　1）獣医臨床における薬物治療の概念と目的について理解する
　2）薬理作用とその発現機構について理解する
　3）薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）と半減期、耐性について理解する
　4）薬物間相互作用について理解する
　5）副作用と中毒について理解する
2．愛玩動物看護師による薬物の取扱い
　1）獣医師による投薬量計算について理解する
　2）各種投薬法（投与経路）を理解し、自宅での投薬を飼い主に指導できる
　3）薬物の適切な管理方法について理解する
3．神経系に作用する薬物
　1）全身麻酔薬と局所麻酔薬について理解する
　2）鎮痛薬について理解する
　3）運動神経系に作用する薬について理解する
　4）鎮静薬と抗けいれん薬について理解する
　5）問題行動の治療に用いられる薬について理解する
4．呼吸器系に作用する薬物
　1）呼吸興奮薬について理解する
　2）鎮咳薬について理解する
　3）気管支拡張薬について理解する
5．循環器・泌尿器に作用する薬物
　1）血管拡張薬（降圧薬）について理解する
　2）心不全治療薬（強心薬）について理解する
　3）抗不整脈薬について理解する
　4）利尿薬について理解する
6．消化器に作用する薬物
　1）制吐薬について理解する
　2）制酸薬と胃粘膜保護薬について理解する
　3）消化管運動調節薬について理解する
　4）止瀉薬について理解する
　5）瀉下薬について理解する
　6）肝疾患の治療に用いられる薬物について理解する
　7）膵酵素製剤について理解する

〔テキスト〕
動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物薬理学Ⅱ

開講年次：3年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。
オータコイド、代謝・内分泌系の薬物、血液・免疫系に作用する薬物、感染症の治療、予防に用いられる薬物、悪性腫瘍の治療に用いられる薬物について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．オータコイド、代謝・内分泌系の薬物
　1）代表的なオータコイドについて理解する
　2）糖尿病治療薬について理解する
　3）甲状腺ホルモン製剤について理解する
　4）ステロイドホルモン製剤について理解する
2．血液・免疫系に作用する薬物
　1）抗貧血薬について理解する
　2）血液凝固抑制薬について理解する
　3）血液凝固促進薬（止血薬）について理解する
　4）非ステロイド系抗炎症薬（NSAIDs）について理解する
　5）免疫抑制薬について理解する
3．感染症の治療、予防に用いられる薬物
　1）抗菌薬について理解する（作用機序による分類、抗菌スペクトルなど）
　2）抗真菌薬について理解する
　3）駆虫薬について理解する
　4）殺虫薬について理解する
　5）消毒薬について理解する
4．悪性腫瘍の治療に用いられる薬物
　1）抗悪性腫瘍薬について理解する（作用機序による分類）

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物感染症学Ⅰ

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

微生物の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断について理解する。
微生物の分類・特徴・検査について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．微生物の分類と特徴
　1）細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する
　2）ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する
　3）真菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する
2．微生物検査
　1）検体採取と取扱いについて理解する
　2）無菌環境下での必要な手技について理解する
　3）微生物染色法、顕微鏡による観察法について理解する
　4）微生物培養法について理解する
　5）抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法（ＰＣＲ検査含む）について理解する
　6）薬剤感受性試験について理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物感染症学Ⅱ

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。
寄生虫の分類と特徴、動物感染症について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．寄生虫の分類と特徴
　1）原虫の分類、形態、生活環及び病原性について理解する
　2）蠕虫（吸虫、条虫、線虫）の分類、形態、生活環及び病原性について理解する
　3）衛生動物（ダニ、ノミなど）の分類、形態、生活環及び病原性について理解する
　4）寄生虫疾患の検査、診断法について理解する
　5）駆虫薬や駆除剤の使用法について理解する
2．動物感染症
　1）病原体の感染経路と伝播様式について理解する
　2）感染症の成立要因について理解する
　3）主な感染症（動物臨床看護学各論の3．代表的な疾患を参照）の症状、治療法、予防法について理解する
　4）消毒、滅菌法について理解する
　5）院内感染の予防対策について理解する

〔テキスト〕
動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物感染症学Ⅲ

開講年次：3年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。
免疫学の基礎と応用について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．免疫学の基礎と応用
1）免疫担当細胞とその役割について理解する
2）自然免疫と獲得免疫について理解する
3）液性免疫と細胞性免疫について理解する
4）アレルギー（Ⅰ～Ⅴ型）と自己免疫疾患について理解する
5）ワクチンの原理と種類、接種プログラムについて理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：公衆衛生学Ⅰ

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。
公衆衛生の概要、疫学と疾病予防について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．公衆衛生の概要
1）公衆衛生の目的について理解する
2）公衆衛生行政について理解する
3）国民衛生の動向について理解する
4）One Health と獣医療の関係について理解する
2．疫学と疾病予防
1）感染の成立について理解する
2）疾病・健康障害の発生要因について理解する
3）疫学調査法について理解する
4）予防疫学について理解する
5）人獣共通感染症とその対策について理解する
6）狂犬病予防について理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：公衆衛生学Ⅱ

開講年次：3年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

環境及び食品衛生、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。
環境衛生、食品衛生について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．環境衛生
1）環境衛生について、歴史、背景、現在の問題点について理解する
2）化学物質によってもたらされる健康障害について理解する
3）放射線による汚染と障害について理解する
4）衛生動物による人や動物への被害と対策について理解する
5）動物の咬傷による人への健康障害について理解する
6）廃棄物の取扱いについて理解する
2．食品衛生
1）食品衛生と食中毒について理解する
2）動物性食品の衛生について理解する
3）食品衛生管理手法（HACCP など）について理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物内科看護学Ⅰ

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識をと技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、所見の記録等について理解する。健康の保持・増進、診療補助に必要な技術、検査・処置に必要な技術、投薬、輸液、輸血に関わる技術について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．健康の保持・増進
　1）健康診断の内容と目的について理解する
2．診療補助に必要な技術
　1）診察における愛玩動物看護師の役割について理解する
　2）診察室の準備と衛生管理について理解する
　3）動物種ごとの適切な接し方について理解する
　4）保定の基本的な原理、目的、方法について理解する
　5）身体検査・アセスメント項目（体重、体温、脈拍、呼吸、意識レベル、粘膜色、股動脈圧、毛細血管再充満時間（CRT）、浅在リンパ節など）について理解する
3．検査・処置に必要な技術
　1）注射器の取扱い及び管理方法について理解する
　2）採血の目的と方法について理解する
　3）採尿の目的と方法（穿刺、カテーテル導尿など）について理解する
　4）穿刺と吸引について理解する
　5）各種カテーテル挿入について理解する
　6）酸素吸入について理解する
　7）マイクロチップの挿入について理解する
4．投薬に関わる技術
　1）薬の処方について理解する
　2）内服薬の使用法について理解する
　3）薬剤の注射法について理解する
　4）外用薬の使用法、薬浴の実施法について理解する
　5）投薬前後の注意事項について理解する
5．輸液に関わる技術
　1）輸液の適応とリスクについて理解する
　2）輸液計画について理解する
　3）各種輸液剤の特性や適応について理解する
　4）輸液中のモニタリングについて理解する
6．輸血に関わる技術
　1）輸血の適応とリスクについて理解する
　2）輸血計画について理解する
　3）クロスマッチ試験と血液型について理解する
　4）各種輸血製剤の適応や特性について理解する
　5）輸血に関わる手技について理解する
　6）輸血による副反応について理解する

〔テキスト〕
動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物内科看護学Ⅱ

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。
心電図と血圧、X線検査、ＣＴ／MRＩ検査、超音波検査、内視鏡検査に関わる技術について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．心電図と血圧に関わる技術
　1）心電図検査の目的と意義について理解する
　2）心電図検査の実施方法について理解する
　3）血圧測定の方法と意義、注意点について理解する
2．X線検査と CT/MRI に関わる技術
　1）X線検査の目的と意義について理解する
　2）放射線防護について理解する
　3）X線検査の実施方法と撮影体位について理解する
　4）造影検査と透視検査について理解する
　5）フイルムの現像とデジタルX線撮影について理解する
　6）CT 及び MRI の概要について理解する
3．超音波検査に関わる技術
　1）超音波検査の目的と実施方法、保定体位について理解する
　2）Ｂモード、Mモード、ドップラー法について理解する
4．内視鏡検査に関わる技術
　1）内視鏡検査の目的と意義について理解する
　2）内視鏡検査の実施方法、準備事項について理解する
　3）スコープの洗浄・消毒法について理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物内科看護学Ⅲ

開講年次：3年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、神経学的検査、眼科検査、皮膚と耳の検査、所見の記録等について理解する。
神経学的検査、眼科検査、皮膚と耳の検査に関わる技術について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．神経学的検査に関わる技術
　1）姿勢反応と脊髄反射について理解する
　2）脳神経の検査法について理解する
　3）神経学的検査の評価記録法について理解する
2．眼科検査に関わる技術
　1）シルマー試験、フルオレセイン試験の方法と意義について理解する
　2）眼圧測定の方法と意義について理解する
　3）眼底検査の方法と意義について理解する
3．皮膚と耳の検査に関わる技術
　1）皮膚病変の観察と記録法について理解する
　2）皮膚掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査、皮膚生検について理解する
　3）ウッド灯検査と真菌培養法について理解する
　4）外耳道の検査方法と意義について理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物外科看護学Ⅰ

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。
外傷、創傷管理、術前準備、麻酔、術中補助、術後管理について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．外傷、創傷管理
1）創傷の種類と治癒過程と管理方法について理解する
2）ドレーンの装着と管理法について理解する
3）止血法について理解する
4）骨折・脱臼の管理について理解する
2．術前準備
1）術前手続（飼い主への説明、承諾書など）や術前検査について理解する
2）無菌的処置の重要性について理解する
3）手術衣、タオル・ドレープ類の準備、滅菌法について理解する
4）手術器具の準備と滅菌法について理解する
5）手術室の機器類（無影灯、電気メス本体など）、準備について理解する
6）器械台の準備について理解する
7）動物の適切なポジショニングについて理解する
8）術野の消毒について理解する
9）手洗い、手術着・手袋の着用法について理解する
3．麻酔
1）麻酔処置時における愛玩動物看護師の役割について理解する
2）麻酔リスクの評価（ASA 分類など）について理解する
3）麻酔前投与（鎮静など）について理解する
4）注射麻酔（局所麻酔を含む）の手技について理解する
5）吸入麻酔の手技について理解する
6）導入時、覚醒時のリスクと対処法について理解する
7）麻酔看視項目（心電図、心拍数、呼吸数、体温、血圧、動脈血酸素飽和度、呼気終末二酸化炭素濃度など）の監視方法、意義について理解する
8）麻酔記録の作成法について理解する
4．術中補助
1）代表的な手術器具（メス、鉗子など）の名称と使用法について理解する
2）代表的な縫合材（縫合針、縫合糸）の分類と使用法について理解する
3）代表的な歯科器具の名称と使用法について理解する
4）直接補助（手袋着用下での補助）の内容について理解する
5）間接補助（手術回りの補助）の内容について理解する
5．術後管理
1）麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて理解する
2）疼痛管理の意義と方法について理解する
3）術創管理と包帯法について理解する
4）退院時の注意点と飼い主への説明事項について理解する
5）褥創の予防及び対処法（体位変換など）について理解する

〔テキスト〕
動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物外科看護学Ⅱ

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物外科看護学Ⅰで学んだことを活用して、救急救命・理学療法に必要な知識を修得する。
救急救命、動物理学療法について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．救急救命
　1）エマージェンシーの原因と病態について理解する
　2）一次救命措置（BLS）について理解する
　3）二次救命措置（ALS）について理解する
　4）気管挿管と心肺蘇生の方法について理解する
2．動物理学療法
　1）動物理学療法の目的と意義について理解する
　2）代表的な理学療法の原理と手技について理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物臨床看護学総論

開講年次：1年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。
動物看護過程の展開、診療記録、動物看護業務、ターミナルケアに関わる技術について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．動物看護過程の展開
　1）動物看護過程の目的や意義、方法について理解する
　2）動物看護過程の各ステップについて理解する
　3）アセスメントについて理解する
　4）事例ごとの個別性、情報の整理と解釈について理解する
　5）問題の明確化と動物看護計画の立案について理解する
　6）動物看護過程の実施と評価について理解する
2．診療記録
　1）診療録（カルテ）の作成方法について理解する
　2）動物看護記録の目的や書式、事例に応じた作成法について理解する
3．動物看護業務
　1）チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割について理解する
　2）ケアの標準化（クリティカルパス）について理解する
　3）事故管理、防止システムについて理解する
　4）若齢動物看護の特徴について理解する
　5）老齢動物看護の特徴や褥瘡について理解する
　6）家庭での継続看護を視野に入れた退院計画・指導について理解する
4．ターミナルケアに関わる技術
　1）ターミナルケアの目的と意義について理解する
　2）QOL やホスピス、緩和ケアについて理解する
　3）グリーフケアについて理解する
　4）死亡した動物への対応とエンゼルケアについて理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物臨床看護学各論Ⅰ

開講年次：2年　授業時数：60　単位数：2
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

病気の徴候や特異的病態について学ぶ。また、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器・栄養代謝性疾患、泌尿器疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。徴候や疾患の理解と対処、代表的な徴候や病態、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器・栄養代謝性疾患、泌尿器疾患について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．徴候や疾患の理解と対処
　1）代表的な徴候や病態、疾患について理解する
　2）徴候の評価と記録法について理解する
　3）痛みの評価について理解する
　4）徴候・疾患に基づいた援助について理解する
2．代表的な徴候
　1）全身徴候：食欲不振・廃絶、元気喪失、発熱、疼痛、削痩
　2）特異的徴候：運動不耐、咳、心雑音、不整脈（房室ブロック、期外収縮、心房・心室細動）、高血圧、努力性呼吸、流涎、嘔吐、吐出、下痢、便秘、血便、黄疸、頻尿、血尿、多飲多尿、跛行、掻痒、発作、視力障害、難聴、眼振、斜頸、貧血、出血傾向
　3）特異的病態：尿毒症、肝性脳症、褥瘡、播種性血管内凝固（DIC）
3．代表的な疾患
　1）循環器疾患：僧帽弁逆流症、心筋症、血栓塞栓症、心膜腹膜横隔膜ヘルニア、心房中隔欠損、心室中隔欠損、卵円孔開存、右大動脈弓遺残症、動脈管開存症、犬糸状虫症
　2）呼吸器疾患：猫上部気道感染症、鼻炎、軟口蓋過長、気管虚脱、短頭種気道症候群、気管支拡張症、気管支炎、肺炎、肺水腫、猫喘息、膿胸、ジステンパー、ケンネルコフ
　3）消化器・栄養代謝性疾患：歯石症、不正咬合、歯肉炎、歯周炎、口蓋裂、口内炎、食道炎、食道狭窄、巨大食道症、幽門狭窄、胃拡張胃捻転症候群（GDV）、胃炎、蛋白喪失性腸症（PLE）、炎症性腸疾患（IBD）、食事反応性下痢（FRD）、抗菌薬反応性下痢（ARD）、腸リンパ管拡張症、消化管内異物、腸閉塞、腸捻転、腸重積、巨大結腸症、直腸脱、会陰ヘルニア、パルボウイルス感染症、肝炎、肝硬変、肝リピドーシス、門脈体循環シャント、 胆嚢粘液嚢腫、膵炎、膵外分泌不全症（EPI）
　4）泌尿器疾患：急性腎障害（AKI）、慢性腎臓病（CKD）、腎盂腎炎、蛋白喪失性腎症（PLN）、尿路感染症、尿石症、膀胱炎、猫下部尿路疾患（FLUTD）、尿道閉塞症、レプトスピラ症

〔テキスト〕
動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物臨床看護学各論Ⅱ

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

内分泌疾患、生殖器疾患、整形外科疾患、皮膚疾患、神経疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。
内分泌疾患、生殖器疾患、整形外科疾患、皮膚疾患、神経疾患について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．代表的な疾患
1）内分泌疾患：甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症、糖尿病、副腎皮質機能亢進症（クッシング症候群）、副腎皮質機能低下症（アジソン病）、尿崩症
2）生殖器疾患：潜在精巣、前立腺炎、前立腺肥大、子宮蓄膿症、偽妊娠、難産、膣脱、乳腺炎、犬ブルセラ症、乳腺腫瘍
3）整形外科疾患：骨折、脱臼、膝蓋骨脱臼、関節炎、変形性関節症、前十字靭帯断裂、股異形成、レッグペルテス病、骨肉腫
4）皮膚疾患：膿皮症、脂漏症、アトピー性皮膚炎、ノミアレルギー性皮膚炎、好酸球性肉芽腫、食物アレルギー、天疱瘡、外耳炎、疥癬、耳ヒゼンダニ症、毛包虫症、皮膚糸状菌症、マラセチア皮膚炎、メラノーマ
5）神経疾患：脳炎、水頭症、てんかん、ウォブラー症候群、椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、馬尾症候群

〔テキスト〕
動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物臨床看護学各論Ⅲ

開講年次：3年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

眼疾患、造血器・免疫介在性疾患、緊急疾患、担がん動物の看護を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。
眼疾患、造血器・免疫介在性疾患、緊急疾患、担がん動物の看護について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．代表的な疾患
1）眼疾患：結膜炎、角膜炎、乾性角結膜炎、角膜潰瘍、ぶどう膜炎、緑内障、白内障、核硬化症、流涙症、第三眼瞼腺脱出（チェリーアイ）、異所性睫毛
2）造血器・免疫介在性疾患：免疫介在性溶血性貧血（IMHA）、ネギ中毒、ヘモプラズマ症、バベシア症、腎性貧血、血友病、猫伝染性腹膜炎（FIP）、猫白血病ウイルス（FeLV）感染症、猫免疫不全ウイルス（FIV）感染症、リンパ腫、白血病、肥満細胞腫
3）緊急疾患：交通事故、感電、熱傷、熱中症、中毒、誤飲、ショック、アナフィラキシー
2．担がん動物の看護
1）がんの診断のための検査と治療の手順について理解する
2）腫瘍随伴症候群について理解する
3）がんの治療を受けている動物の看護援助について理解する
4）担がん動物の治療と化学療法の副作用について理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物臨床検査学

開講年次：1年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。
臨床検査の基礎、血液検査、尿検査、糞便検査、細胞診と病理組織検査、遺伝子検査について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．臨床検査の基礎
　1）臨床検査における愛玩動物看護師の役割について理解する
　2）基準値、感度、特異度、精度管理について理解する
　3）検体採取法（血液、尿、便、粘膜、スワブ、体表組織など）について理解する
2．血液検査
　1）血漿、血清の分離法について理解する
　2）全血球計算法（CBC）について理解する
　3）血液塗抹の作製及び観察法について理解する
　4）ヘマトクリット管を用いた検査について理解する
　5）凝固検査の目的と意義について理解する
　6）血液化学検査の目的と意義について理解する
　7）血液ガス検査の目的と意義について理解する
　8）免疫学的検査の目的と意義について理解する
3．尿検査
　1）尿の性状検査について理解する
　2）尿沈渣について理解する
4．糞便検査
　1）虫卵・原虫の検出法について理解する
　2）細菌の観察法について理解する
5．細胞診と病理組織検査
　1）細胞診断の目的と方法について理解する
　2）病理組織検査のための検体の取扱いについて理解する
6．遺伝子検査
　1）遺伝子検査の目的と応用例について理解する
　2）遺伝子検体の採取及び取扱いについて理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物医療コミュニケーション

開講年次：1年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。
クライアントエデュケーション、院内コミュニケーション、院内業務について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．クライアントエデュケーション
　1）適正飼養について理解し、健康管理のために必要な情報を飼い主に提供できる
　2）動物と飼い主が良好な関係を構築する方法について理解する
　3）病気の適切な予防法（予防接種、フィラリア予防、ノミ・ダニ予防、歯科予防、去勢・不妊手術など）について理解する
　4）在宅看護等におけるコミュニケーション技能について理解する
2．院内コミュニケーション
　1）飼い主への指導を主体としたインフォームドコンセントについて理解する
　2）獣医療面接のプロセス（導入、稟告、質問、傾聴、要約、確認、終結など）について理解する
　3）チーム獣医療に関するコミュニケーション技能（報告・連絡・相談）について理解する
3．院内業務
　1）受付業務（診療受付、電話対応、清算、トラブル対応など）について理解する
　2）物品購入や管理について理解する
　3）ペット保険について理解する

〔テキスト〕
動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：愛玩動物学

開講年次：2年　授業時数：60　単位数：2
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。
歴史と品種、使役動物、愛玩動物の飼養管理、動物の基本的な取扱いについて理解する。

〔講義・演習項目〕

1．歴史と品種
1）犬の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ（品種に適したグルーミングなど）について理解する
2）猫の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ（品種に適したグルーミングなど）について理解する
3）代表的なエキゾチック動物の種類と特徴、生態について理解する
4）血統と血統書について理解する
2．使役動物
1）使役動物（犬、その他の動物）の歴史と福祉について理解する
2）補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）の歴史と現状について理解する
3）補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）の役割と育成、適性について理解する
4）その他の使役犬（災害救助犬、警察犬、麻薬探知犬、検疫探知犬など）の種類と特徴及び現状について理解する
3．愛玩動物の飼養管理
1）犬の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢、社会化訓練など）について理解する
2）猫の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢など）について理解する
3）愛玩鳥の適切な飼養管理方法（飼養環境、体調管理など）について理解する
4）代表的なエキゾチック動物（ウサギ、ハムスターなど）の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理など）について理解する
4．動物の基本的な取扱い
1）動物を安全に散歩・運動・ふれあいさせることの意義について理解する
2）基本的グルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など）の目的・方法について理解する
3）適切な飼養環境やストレスの緩和方法について理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：人と動物の関係学

開講年次：1年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。
人間と動物の関わり、人間の福祉と愛玩動物の関わり、動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．人間と動物の関わり
1）動物の飼養・利用の歴史について理解する
2）欧米と日本の動物観、動物との関わりの相違について理解する
3）動物の飼養と利用の現状について理解する
2．人間の福祉と愛玩動物の関わり
1）動物虐待と対人暴力の連動性に関する基礎知識について理解する
2）多頭飼育崩壊（アニマル・ホーディング）について理解する
3）愛玩動物が子供や高齢者に与える恩恵及び人間の加齢に伴って飼養困難になる様々な事情について理解する
3．動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育
1）動物との接触が人間に与える身体的・心理的影響について理解する
2）動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の目的と内容について理解する
3）動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に使用される動物の公衆衛生学的適性、行動学的適性について理解する
4）動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に対する動物病院や愛玩動物看護師の関わりについて理解する
5）学校飼育動物の目的や実態、愛玩動物看護師の関わりについて理解する（文部科学省が道徳教育の一環として認めていることを含む）

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：適正飼養指導論

開講年次：2年　授業時数：60　単位数：2
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。
愛玩動物の飼養、適正飼養の推進、災害危機管理と支援、動物愛護管理行政について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．愛玩動物の飼養
1）愛玩動物の適正飼養の目的、概念について理解する
2）愛玩動物飼養の現状について理解する
3）愛玩動物飼養によって人間が受ける影響と問題点について理解する
4）愛玩動物の飼養のニーズや目的を理解するとともに、グリーフケア、ペットロスについてその概要と飼い主の心情を理解し、必要な支援について理解する
2．適正飼養の推進
1）適正飼養に関する支援の目的と活動（民間団体等によるものを含む）について理解する
2）動物取扱業者における適正飼養について理解する
3）愛玩動物の過剰繁殖の問題とその対策について理解する
4）問題行動予防のための適切な飼養方法としつけ、飼い主に指導すべき事項や方法について理解する
3．災害危機管理と支援
1）災害時の同行避難の重要性を理解し、説明できる
2）愛玩動物とその飼い主の災害の備えについて理解し、説明できる
3）災害獣医療の概要と災害時における愛玩動物看護師の役割について理解する
4．動物愛護管理行政
1）飼い主指導の基盤として、公衆衛生業務における愛玩動物看護師の役割について理解する
2）動物愛護週間の役割と実施状況について理解する
3）犬・猫の引取り及び負傷動物などの収容並びに処分の状況について理解する
4）動物による事故の内容と報告状況について理解する
5）動物愛護管理センターの活動及び動物愛護推進員・協議会の役割について理解する
6）動物取扱責任者の選任条件と役割について理解する

〔テキスト〕
動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物生活環境学

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。
飼養環境整備、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットへの教育・訓練施設、動物介在教育施設、ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．飼養環境整備
　1）動物行動学を踏まえた人とペットのための飼養環境整備の必要性や方法（問題行動予防を含む）について理解する
　2）ペット共生住宅の現状、環境整備・管理の方法について理解する
2．ペットツーリズム関連施設、ドッグラン
　1）ペットツーリズムの現状と実施方法について理解する
　2）ペット同伴宿泊ホテルの環境整備・管理の方法について理解する
　3）ドッグランの環境整備・管理の方法について理解する
　4）ペット関連のイベント活動の企画運営や地域振興について理解する
3．保護収容施設
　1）動物シェルターや災害時の避難施設の環境整備・管理の方法、シェルターメディスンについて理解する
　2）動物愛護管理センターの役割、施設の概要、普及啓発活動について理解する
4．ペットへの教育・訓練施設
　1）動物の社会化トレーニングの意義、必要性、方法、施設等について理解する
5．動物介在教育施設
　1）学校飼育動物等の施設の環境整備・管理の方法について理解する
6．ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応
　1）飼育マナーの必要性や目的について理解する
　2）飼育マナーの歴史、地域における飼育マナーの違いについて理解する
　3）地方自治体において定められている飼育マナーに関する各種の条例について理解する
　4）愛玩動物の種類別に必要とされている飼育マナーについて理解する
　5）ペット保険の仕組みと実態について理解する

〔テキスト〕
動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：ペット関連産業概論

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。
ペット関連産業における職業倫理、ペットの飼養実態と市場規模、各ペット関連産業の現状と課題、動物取扱業について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む）
　1）責任と社会的役割を理解する（職業倫理）
　2）商取引における関連法規の概要について理解する
　3）動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法について理解する
2．ペットの飼養実態と市場規模
　1）ペットの飼養実態及びペット関連産業の概要・市場規模について理解する
3．各ペット関連産業の現状と課題
　1）ペットフード、ペット用品、ペット関連サービス（生体分野、美容・ヘルスケア分野、レクリエーション・観光分野、葬儀・霊園分野、獣医療分野、ペット共生住宅・マンション分野など）の現状と課題を理解する。
4．動物取扱業
　1）動物取扱業制度の概要について理解する
　2）動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法や衛生管理に係る手法について理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物形態機能学実習

開講年次：1年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。
運動器、内臓器官、顕微鏡の取扱い、組織像の観察について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．運動器
　1）骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する
　2）代表的な関節の名称と構造、機能について理解する
　3）代表的な骨格筋の名称と構造、機能について理解する
2．内臓器官
　1）模型などを用いて、主要な内臓器官の配置について理解する
　2）生殖器の雌雄差について理解する
3．顕微鏡の取扱い
　1）顕微鏡各部位の名称、鏡検条件（倍率など）について理解する
　2）顕微鏡の適切な操作法について修得する
　3）顕微鏡の適切な管理法について修得する
4．組織像の観察
　1）主要臓器の組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する
　2）組織像に見られる代表的な構造に関し、機能との関係について理解する

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物内科看護学実習Ⅰ

開講年次：1年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

内科診療に必要な身体検査の手技などの実践力を習得する。
全身状態、バイタルサインを評価できる。

〔講義・演習項目〕

1．身体検査
1）全身状態（意識レベル、ボディコンディションスコア、粘膜色、浅在リンパ節、体重測定を含む）を評価できる
2）バイタルサインを評価できる（体温、脈拍数、呼吸数、毛細血管再充満時間（CRT）、股動脈圧）

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物内科看護学実習Ⅱ

開講年次：1年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

内科診療に必要な診察補助などの実践力を習得する。
診察補助ができる。

〔講義・演習項目〕

1．診察補助
1）診察の準備や診察室の衛生管理ができる
2）基本的な保定を実施することができる
3）聴診器や体温計、注射器を適切に取り扱うことができる
4）採血・採尿（尿カテーテルの挿入を含む）の手順を習得している
5）薬剤の取扱い、経口投与・注射の手順を習得している

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物内科看護学実習Ⅲ

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

輸液・輸血・マイクロチップに関する技術などの実践力を習得する。
輸液・輸血・マイクロチップに関わる技術を習得できる。

〔講義・演習項目〕

1．輸液・輸血に関わる技術
　1）留置針設置の手順を修得し、準備及び補助ができる
　2）輸液ポンプ、シリンジポンプを使用できる
　3）輸液・輸血中の動物を管理できる
2．マイクロチップに関わる技術
　1）マイクロチップの適切な挿入部位について理解する
　2）マイクロチップ装着手順を習得している

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物内科看護学実習Ⅳ

開講年次：3年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

生体検査に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。
生体検査の補助ができる。

〔講義・演習項目〕

1．生体検査
1）心電図検査を実施し、結果を記録できる
2）X線撮影のための基本的な保定ができる
3）放射線防護のための装備を正しく扱える
4）超音波検査のための基本的な保定ができる
5）神経学的検査の所見を記録できる
6）眼科検査（シルマー試験、フルオレセイン試験、眼底検査など）の補助ができる
7）皮膚検査（掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査など）の補助ができる
8）外耳道検査の補助ができる

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物臨床検査学実習Ⅰ

開講年次：1年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

血液検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。
血液検査ができる。

〔講義・演習項目〕

1．検体検査
1）検体採取・処理の手順を習得している
2）マイクロピペットや遠心分離器を正しく操作できる
3）血漿、血清を分離できる
4）血液塗抹標本を作製、染色できる
5）血液塗抹標本を観察し、白血球の百分比を算出できる
6）全血球計算及び血液化学検査を実施できる
7）簡易血清学的検査を実施できる

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物臨床検査学実習Ⅱ

開講年次：3年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物臨床検査学実習Ⅰで学んだ検体採取・処理の手順、マイクロピペットや遠心分離器の操作方法を活用し、尿検査・糞便検査・細胞診に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。
尿検査・糞便検査ができる。細胞診の準備、補助ができる。

〔講義・演習項目〕

1．検体検査
1）尿検査を実施し、物理化学性状を記録できる
2）尿沈渣を観察し、所見を記録できる
3）糞便検査を実施し、虫卵及び原虫を検出できる
4）細胞診の準備、補助ができる

〔テキスト〕
動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物外科看護学実習Ⅰ

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助など動物外科看護学Ⅰで学んだ知識の実践力を修得する。
外科手術を補助するために必要な技術を修得する。

〔講義・演習項目〕

1．術前準備
1）手術器具の準備、滅菌ができる
2）手術衣、タオル・ドレープ類を準備し滅菌できる
3）手術に必要な機器、器械台を準備できる
4）手術台への動物の固定、術野の消毒ができる
5）手洗い、手術衣や手袋の装着ができる
2．術中補助
1）麻酔器の各部名称や使用法を理解し、指示に従って操作できる
2）モニター機器（心電図、血圧計など）を接続でき、術中監視を行うことができる
3）麻酔記録を作成することができる
4）直接補助（器械の受渡しなど）ができる
5）間接補助（無影灯、保温マットの操作など）ができる
6）歯科器具の取扱いを理解し、歯科処置（歯石除去など）の補助ができる
3．術後管理
1）術後の創傷管理（ネット、カラー装着などを含む）ができる
2）動物に包帯（粘着性、自着性など）を装着できる
3）抜糸の補助ができる

〔テキスト〕
動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物外科看護学実習Ⅱ

開講年次：3年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物外科看護学実習Ⅰで修得した知識に応用力をつけて正確性、迅速性を身につける。
動物外科看護学実習Ⅰよりさらに応用力を身につける。

〔講義・演習項目〕

1．術前準備
1）手術器具の準備、滅菌ができる
2）手術衣、タオル・ドレープ類を準備し滅菌できる
3）手術に必要な機器、器械台を準備できる
4）手術台への動物の固定、術野の消毒ができる
5）手洗い、手術衣や手袋の装着ができる
2．術中補助
1）麻酔器の各部名称や使用法を理解し、指示に従って操作できる
2）モニター機器（心電図、血圧計など）を接続でき、術中監視を行うことができる
3）麻酔記録を作成することができる
4）直接補助（器械の受渡しなど）ができる
5）間接補助（無影灯、保温マットの操作など）ができる
6）歯科器具の取扱いを理解し、歯科処置（歯石除去など）の補助ができる
3．術後管理
1）術後の創傷管理（ネット、カラー装着などを含む）ができる
2）動物に包帯（粘着性、自着性など）を装着できる
3）抜糸の補助ができる

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物外科看護学実習Ⅲ

開講年次：3年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

救急救命について動物外科看護学Ⅱで学んだ知識の実践力を習得する。
救急救命に必要な技術ができる。

〔講義・演習項目〕

1．救急救命
1）必要な機材、薬剤を迅速に準備できる
2）気管挿管を補助できる
3）心肺蘇生（人工呼吸、心マッサージ）の手順を習得している

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物臨床看護学実習Ⅰ

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学総論及び動物臨床看護学各論Ⅰ、Ⅱで学んだ知識の実践力を習得する。
動物看護過程の実践ができる。

〔講義・演習項目〕

1．動物看護過程の実践（事例演習）
1）事例を通して動物看護アプローチの個別性について理解する
2）看護動物の生活環境（家族を含む）が健康に及ぼす影響を理解する
3）症状や入院・治療が看護動物と家族に及ぼす影響を理解する
4）看護動物の看護上の問題を理解し、優先順位を付けることができる
5）看護動物の援助の内容・方法を立案できる
6）動物看護計画を作成できる
7）動物看護記録を作成できる

〔テキスト〕
動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物臨床看護学実習Ⅱ

開講年次：3年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物臨床看護学で学んだことを活用し、入院及び栄養管理について実践力を習得する。
入院動物の管理、栄養管理ができる。

〔講義・演習項目〕

1．入院及び栄養管理
1）入院動物の管理、アセスメントができる
2）ケージの清掃、管理ができる
3）ペインスケールを用いて痛みの程度を評価できる
4）栄養チューブ設置の準備や流動食の調製ができる
5）褥瘡を持つ動物の看護（体位変換など）ができる

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物愛護・適正飼養実習Ⅰ

開講年次：1年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物の飼養管理に関する基本的なグルーミングや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。
基本的なグルーミングができる。飼い主とのコミュニケーションについて理解する。

〔講義・演習項目〕

1．動物の基本的な取扱い
　1）基本的なグルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など）を実施できる
　2）動物の飼養環境を適切に整備できる
2．飼い主とのコミュニケーション
　1）犬や猫の品種に応じた特徴について説明できる
　2）動物の適切な飼養方法（飼養環境、散歩方法、基本的なしつけなどを含む）について指導できる
　3）飼い主が法令に基づき遵守すべき対応について指導できる
　4）動物の飼養が困難となっている飼い主への支援を説明できる
　5）避難所等災害時の飼い主への支援を説明できる

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物愛護・適正飼養実習Ⅱ

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
獣医師が生体組織の基礎から手術補助など動物病院等で働くための知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや動物愛護管理行政など、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。
動物の基本的な取扱いができる。動物愛護管理行政について理解する。

〔講義・演習項目〕

1．動物の基本的な取扱い
　1）動物種に応じた安全なハンドリングができる
　2）動物を安全に散歩・運動させることができる
　3）犬の散歩や運動、ふれあいのために、適切な道具（首輪、胴輪、リード、おもちゃなど）を選択することができる
2．動物愛護管理行政
　1）動物愛護管理センターの活動を理解する（動物愛護管理センターへの見学などを含む）
　2）動物取扱業へ指導すべき内容について理解する
　3）動物取扱業における顧客等への対応について実践することができる

〔テキスト〕
動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物看護総合実習Ⅰ

開講年次：1年　授業時数：60　単位数：2
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および臨床実習施設の担当者（実務者）
臨床実習施設の獣医師をはじめとする獣医療従事者などが実習期間中、経験上の指導を行う。

〔講義主要目標及び講義概要〕

実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。
動物看護業務を理解する。

〔講義・演習項目〕

1．動物看護業務の理解
1）チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割を理解する
2）動物診療施設を見学し、設備や機能を理解する
3）愛玩動物を適正に管理する方法について理解する

〔テキスト〕
動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
実習期間中のレポート、実習先から提出される評価書、出席などを総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物看護総合実習Ⅱ

開講年次：2年　授業時数：60　単位数：2
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および臨床実習施設の担当者（実務者）
臨床実習施設の獣医師をはじめとする獣医療従事者などが実習期間中、経験上の指導を行う。

〔講義主要目標及び講義概要〕

実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について体験し、実務能力を修得する。
動物看護業務を体験する。

〔講義・演習項目〕

1．動物看護業務の体験
1）診察室における獣医療補助行為を体験する
2）各種検査や処置、外科手術の補助を体験する
3）入院動物の看護を体験する
4）飼い主との適切なコミュニケーションを体験する

〔テキスト〕
動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
実習期間中のレポート、実習先から提出される評価書、出席などを総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物看護総合実習Ⅲ

開講年次：3年　授業時数：60　単位数：2
種類：専門科目　分類：必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および臨床実習施設の担当者（実務者）
臨床実習施設の獣医師をはじめとする獣医療従事者などが実習期間中、経験上の指導を行う。

〔講義主要目標及び講義概要〕

実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について実践し、実務能力を修得する。
動物看護業務を実践する。

〔講義・演習項目〕

1．動物看護業務の実践
1）実際の動物診療施設で、診察室における診療の補助を実践する
2）スタッフと連携協働し、チーム獣医療を実践する
3）動物看護計画を立案し、実践する
4）飼い主に対し適正飼養及び療養生活の指導を実践する

〔テキスト〕
動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
実習期間中のレポート、実習先から提出される評価書、出席などを総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：基礎動物看護学演習Ⅰ

開講年次：3年　授業時数：60　単位数：2
種類：専門科目　分類：選択必修
授業方法：演習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

基礎動物学および基礎動物看護学で学習した内容を、問題演習を通して理解力を深め、愛玩動物看護師試験に合格できる知識を身につけることを目標とする。

〔講義・演習項目〕

1．生命倫理・動物福祉演習基礎
2．動物形態機能学演習基礎
3．動物繁殖学演習基礎
4．動物行動学演習基礎
5．動物栄養学演習基礎
6．比較動物学演習基礎
7．動物看護関連法規演習基礎
8．動物愛護・適正飼養関連法規演習基礎
9．動物看護学概論演習基礎
10．動物病理学演習基礎
11．動物薬理学演習基礎
12．動物感染症学演習基礎
13．公衆衛生学演習基礎

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：基礎動物看護学演習Ⅱ

開講年次：3年　授業時数：60　単位数：2
種類：専門科目　分類：選択必修
授業方法：演習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

基礎動物看護学演習Ⅰで学習した基礎知識を応用し、問題演習を通して愛玩動物看護師試験に合格できる知識を身につけることを目標とする。

〔講義・演習項目〕

1．生命倫理・動物福祉演習応用
2．動物形態機能学演習応用
3．動物繁殖学演習応用
4．動物行動学演習応用
5．動物栄養学演習応用
6．比較動物学演習応用
7．動物看護関連法規演習応用
8．動物愛護・適正飼養関連法規演習応用
9．動物看護学概論演習応用
10．動物病理学演習応用
11．動物薬理学演習応用
12．動物感染症学演習応用
13．公衆衛生学演習応用

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：臨床動物看護学演習Ⅰ

開講年次：3年　授業時数：60　単位数：2
種類：専門科目　分類：選択必修
授業方法：演習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

臨床動物看護学で学習した内容を、問題演習を通して理解力を深め、愛玩動物看護師試験に合格できる知識を身につけることを目標とする。

〔講義・演習項目〕

1．動物内科看護学演習基礎
2．動物外科看護学演習基礎
3．動物臨床看護学総論演習基礎
4．動物臨床看護学各論演習基礎
5．動物臨床検査学演習基礎
6．動物医療コミュニケーション演習基礎

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：臨床動物看護学演習Ⅱ

開講年次：3年　授業時数：60　単位数：2
種類：専門科目　分類：選択必修
授業方法：演習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

臨床動物看護学演習Ⅰで学習した基礎知識を応用し、問題演習を通して愛玩動物看護師試験に合格できる知識を身につけることを目標とする。

〔講義・演習項目〕

1．動物内科看護学演習応用
2．動物外科看護学演習応用
3．動物臨床看護学総論演習応用
4．動物臨床看護学各論演習応用
5．動物臨床検査学演習応用
6．動物医療コミュニケーション演習応用

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：愛護・適正飼養学演習Ⅰ

開講年次：2年　授業時数：60　単位数：2
種類：専門科目　分類：選択必修
授業方法：演習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

愛護・適正飼養学で学習した内容を、問題演習を通して理解力を深め、愛玩動物看護師試験に合格できる知識を身につけることを目標とする。

〔講義・演習項目〕

1．愛玩動物学演習
2．人と動物の関係学演習
3．適正飼養指導論演習
4．動物生活環境学演習
5．ペット関連産業概論演習

〔テキスト〕

動物看護のテキストおよび問題集、愛玩動物飼養管理士テキスト、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：アニマルトレーニングⅠ

開講年次：1年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：選択必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
訓練士、ドックトレーナー等で経験のある者が、ドッグトレーナー等に必要な知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物業界従事者として、犬の生態や習慣、行動特徴をよく理解することで「しつけ」が人間社会で犬と生活するうえで欠かせないものであることを理解する。
また、純粋犬種を守って後世に伝えていくという目的も有しているドッグショーにおいて、ハンドラーの役割が重要であり、犬の基本的な扱い方としてハンドリング技術を身につける。

〔講義・演習項目〕

1．基本的なトレーニング
2．適切なしつけ
　1）訓練としつけの違い
　2）適切なしつけ方の選択
　3）正の強化を利用したしつけ
3．ハンドリングとドッグショーの歴史
4．犬の体の構造
5．ハンドリング技術①（スタック）
6．ハンドリング技術②（アップ&ダウン）
7．ハンドリング技術③（トライアングル）
8．ハンドリング技術④（ラウンド）
9．ハンドリング技術⑤（リードワーク）

〔テキスト〕

動物看護のテキスト、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、実習レポート、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：アニマルトレーニングⅡ

開講年次：1年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：選択必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
訓練士、ドックトレーナー等で経験のある者が、ドッグトレーナー等に必要な知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物業界従事者として、人と犬の関係を歴史から理解したうえで、人と犬の関係をつなぐ用具やトレーニングの種類を学び、様々な犬とコミュニケーションが図れるよう実践する。
その際、人間社会で犬と生活する上で必要となる「しつけ」とは何かを実践的に学び、「停座」「伏臥」「居座」などの「オビディエンス」の基本について学ぶ。

〔講義・演習項目〕

1．動物のコミュニケーション行動
2．馴化と社会化
3．オペラント条件づけ
4．停座訓練①
5．伏臥訓練①
6．招呼訓練①
7．居座訓練①
8．立止訓練①
9．脚側行進訓練①
10．散歩訓練①

〔テキスト〕

動物看護のテキスト、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、実習レポート、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：アニマルトレーニングⅢ

開講年次：3年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：選択必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
訓練士、ドックトレーナー等で経験のある者が、ドッグトレーナー等に必要な知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物業界従事者として、犬の行動特性を学ぶうえで、様々な犬種を扱いながら犬の行動や状態、性格分析を行う。また、各犬に応じた接し方を学ぶことで、人間と犬との関係性（コミュニケーション）の築き方を学ぶ。

〔講義・演習項目〕

1．正常行動
2．異常行動
3．問題行動
4．行動修正
5．問題行動診療の助けになるグッズ
6．停座訓練②
7．伏臥訓練②
8．招呼訓練②
9．居座訓練②
10．立止訓練②
11．脚側行進訓練②
12．散歩訓練②

〔テキスト〕

動物看護のテキスト、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、実習レポート、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：グルーミングケアⅠ

開講年次：1年　授業時数：60　単位数：2
種類：専門科目　分類：選択必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
サロン等でトリマー経験のある者が、グルーミング技術と関連知識を基礎から教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物業界従事者として、グルーミング実習を実施するにあたり、使用する用具の基礎知識・使用方法や健康管理・保定方法を学び、さらにベーシックの基礎知識の修得を目標とする。

〔講義・演習項目〕

1．グルーミング用具の使用方法とお手入れ
2．グルーミング前の生体確認（体温測定や健康状態の確認）
3．生体の保定
4．犬のベーシック技術（爪切り、爪やすり）
5．犬のベーシック技術（耳掃除）
6．犬のベーシック技術（ブラッシング、コーミング）
7．犬のベーシック技術（ベイジング）
8．犬用シャンプーの使用方法（シャンピング）
9．犬用リンスの使用方法
10．犬のベーシック技術（ドライング）
11．犬のベーシック技術（クリッピング）

〔テキスト〕

Dog Grooming　Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、実習レポート、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：グルーミングケアⅡ

開講年次：1年　授業時数：60　単位数：2
種類：専門科目　分類：選択必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
サロン等でトリマー経験のある者が、グルーミング技術と関連知識を基礎から教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物業界従事者として、グルーミング道具の正しい使用方法を実習から学び、グルーミングの基礎技術を修得することを目標とする。さらに生体実習を通して、生体に負担をかけないトリミングを目標とする。

〔講義・演習項目〕

1．犬種に適したシャンプー技術（短毛種）
2．犬種に適したシャンプー技術（長毛種）
3．犬の体格に適したベイジング（大型犬）
4．犬の体格に適したベイジング（小型犬）
5．生体の保定
6．犬のベーシック技術（ベイジング前作業）
7．犬のベーシック技術（ベイジング）
8．犬のベーシック技術（ベイジング後作業）
9．犬のベーシック技術（クリッピング）
10. 犬体モデルを使用したケネルカット技術①（頭部①、足先、下腹部）
11. 犬体モデルを使用したケネルカット技術②（後躯、後肢）
12. 犬体モデルを使用したケネルカット技術③（前躯、前肢）
13. 犬体モデルを使用したケネルカット技術④（頭部②、耳、尾）

〔テキスト〕

Dog Grooming　Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、実習レポート、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：グルーミングケアⅢ

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：選択必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
サロン等でトリマー経験のある者が、グルーミング技術と関連知識を基礎から教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物業界従事者として、グルーミング実習により、ベーシックの基礎技術を身に付け、さらにトリミングの基礎技術の修得を目標とする。

〔講義・演習項目〕

1．一人で行う犬の保定技術
2．一人で行う犬のベーシック技術（ベイジング前作業）
3．一人で行う犬のベーシック技術（ベイジング）
4．一人で行う犬のベーシック技術（ベイジング後作業）
5．一人で行う犬のベーシック技術（クリッピング）
6．トイプードルのケネル（ラム）クリップ（頭部①）
7．トイプードルのケネル（ラム）クリップ（足先・下腹部）
8．トイプードルのケネル（ラム）クリップ（後躯・後肢）
9．トイプードルのケネル（ラム）クリップ（前躯・前肢）
10．トイプードルのケネル（ラム）クリップ（頭部②）
11．トイプードルのケネル（ラム）クリップ（耳・尾）
12．犬種の特徴によるグルーミング（非カット犬種）
13．犬種の特徴によるグルーミング（カット犬種）

〔テキスト〕

Dog Grooming　Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、実習レポート、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：グルーミングケアⅣ

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：選択必修
授業方法：実習
担当教員：本学教員および実務経験のある教員
サロン等でトリマー経験のある者が、グルーミング技術と関連知識を基礎から教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

小型犬・大型犬などの多種多様な犬種の特徴に合わせたグルーミングやトリミングが実践できるような技術を修得し、動物業界従事者としてトリミング技術の応用力を育成すること目標とする。

〔講義・演習項目〕

1．小型犬のグルーミング実践
　1）カット犬種のベーシック
　2）カット犬種のカット
　3）非カット犬種のベーシック
2．大型犬のグルーミング実践
　1）カット犬種のベーシック
　2）カット犬種のカット
　3）非カット犬種のベーシック
3．プードル　テディベアカット（頭部）トリミング実践
4．プードル　テディベアカット（後躯）トリミング実践
5．プードル　テディベアカット（前躯）トリミング実践

〔テキスト〕

Dog Grooming　Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、実習レポート、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：接遇講座

開講年次：2年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：選択必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物業界従事者として、サービス業務に対する心構え、対人心理の理解、応対の技術、口のきき方、態度・振舞いなど接遇技能を養う。身だしなみ、話し方や経済用語、社会常識、時事用語などの知識を身につけた上で、実際の事例を基に的確な対処ができる能力を習得する。
実務技能においては、問題処理、環境整備、金品管理、金品搬送、社交業務の５分野について学ぶ。

〔講義・演習項目〕

１．サービススタッフの資質
　１）必要とされる要件
　２）従業要件
２．サービス知識
　１）サービス知識
　２）従業知識
３．一般知識
　１）社会常識
４．対人技能
　１）人間関係
　２）接遇知識
　３）話し方
　４）服装
５．実務技能
　１）問題処理
　２）環境整備
　３）金品管理
　４）金品搬送
　５）社交業務

〔テキスト〕

サービス接遇検定公式テキスト・サービス接遇検定問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：家庭動物学

開講年次：1年　授業時数：30　単位数：1
種類：専門科目　分類：選択必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物業界従事者として、ペット販売に関わる正しい知識を身につけ、飼い主に対し社会的責任を果たすために必要なことを十分説明できる技能を有することを目標とする。
ペット業界に携わる者として必要な動物愛護管理法に関する知識を身につける必要がある。また、トラブルを予防するための基礎知識やアフターフォローの方法も学習する。更に犬と猫を中心とした病気、繁殖、フード、しつけなども学習する。

〔講義・演習項目〕

1．動物取扱業者の職業倫理
　1）動物取扱業の社会的役割と責任
　2）動物の愛護のための法律知識
　3）諸外国の動物愛護の法と精神
2．動物販売に必要な基礎知識と技術
　1）トラブル予防と発生時に対応に関する基礎知識
　2）接客マナーの基本
3．動物に関する基礎知識と管理方法
　1）動物に関する基礎知識
　2）適正飼養・管理のための行動学
　3）命ある動物の適切な展示方法
　4）展示施設の衛生管理
4．動物の健康管理
　1）犬と猫の病気に関する知識
　2）人と動物の共通感染症を正しく理解するために
　3）ペットフード・犬猫関連用品・ペット保険の基礎知識
5．5．動物の適正な繁殖方法
　1）犬と猫の繁殖
　2）血統証明書の意義と見方
6．ペット関連法規

〔テキスト〕
家庭動物管理士テキスト、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕
授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。
ただし、出席時数が授業時数の３分の２に達しない者は、評価を受けることができない。